

地域運営組織の持続的な運営に向けた 取組事例集



総務省

令和6年3月
地域力創造グループ
地域振興室

○目次

01.	伊手振興会(岩手県奥州市)	…	1
02.	古館まちづくりの会(岩手県紫波町)	…	3
03.	能登島地域づくり協議会(石川県七尾市)	…	5
04.	厚生地区まちづくりの会(三重県伊勢市)	…	7
05.	平野学区まちづくり協議会(滋賀県大津市)	…	9
06.	魚住まちづくり協議会(兵庫県明石市)	…	11
07.	加茂小コミュニティ協議会(兵庫県川西市)	…	13
08.	ゆりのき台地域活動協議会(兵庫県三田市)	…	15
09.	浅原の未来を創る会(広島県廿日市市)	…	17
10.	吉舎町自治振興連合会(広島県三次市)	…	19
11.	みやの地域づくり協議会(山口県山口市)	…	21
12.	豊浦地区まちづくり協議会(山口県下関市)	…	23
13.	川東校区コミュニティ協議会(香川県高松市)	…	25
14.	集落活動センターあわ(高知県須崎市)	…	27
15.	吉武地区コミュニティ運営協議会(福岡県宗像市)	…	29

【概要】

立地自治体	岩手県奥州市	人口規模	約1,400人	
設立年度	昭和53年度	活動エリア	小学校区と一致する	
構成団体	構成団体	法人格の有無	無	
	協力団体	体制	役員とは別の事務局体制を確保	
	自治会	詳細	役員	54名
	地域活動団体		役員以外	4名(うち常勤・有償1名、非常勤・有償3名)
		ホームページなど	https://esashiide.jimdofree.com/	

【具体的な活動内容】

【特別プロジェクト(3プロジェクト)の推進】

- 路線バスの廃止に伴い、地区内交通として自家用有償旅客運送を実施することとし、住民に対するヒアリングによるニーズの把握や令和4年度の試験運行を経て、本格実施に取り組んでいる。
- 小学校の統廃合を受けて、廃校の旧校舎を地域活動の拠点としてリニューアルし、地域運営組織が中心となって、子どもをターゲットとしたイベントの実施に取り組んでいる。
- 地域の基盤産業である農業の振興について、水、コメの地域ブランド化や、担い手が高齢化している農地の保全に取り組んでいる。



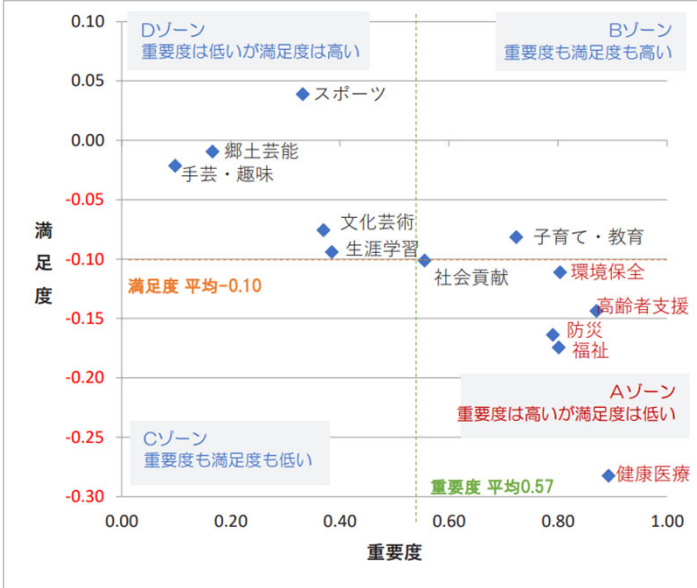
【子ども支援・子育て支援】

- 地域運営組織が主体となって、多世代が気軽に集まり、交流することのできる機会の創出に取り組んでいる。
- 放課後児童クラブ「いでっ子くらぶ」では、社会福祉協議会やJAなどと連携して、地区センターを会場に「いでっ子笑顔食堂」を開催している。

【安全・安心】

- 高齢者世帯を対象にした個別防犯パトロールや「ため池パトロール」などを通じた、見守り活動を実施している。
- 洪水や山崩れを想定した災害への備えや避難訓練などの防災の取組を実施している。
- その他、交通防犯教室をはじめとする交通安全、住民自ら取り組むことのできる有害鳥獣対策の検討などを実施している。

【地域計画(ビジョン)の策定・見直しに向けた取組事例】

<p>取り組み</p>	<p>計画の作成にあたって、既存事業の評価を実施し、その後の活動に反映</p>										
<p>経緯・狙い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉱山の閉山等の産業構造の転換や人口減少・高齢化が進み、従前の地域づくり活動を維持し続けるのが困難となっていた。数十年後には人口規模が半減する見通しであるなか、コミュニティ計画の更新を契機として、地域運営組織が取り組む地域づくり活動の見直しを実施することとなった。 										
<p>取組の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域運営組織の役員や事務局だけでなく、住民から広く意見を聞いて計画に反映させるため、アンケート調査やワークショップを実施した。従来行われてきた活動の「重要度」「満足度」を把握し、二軸分析を通じて取組の仕分けを進めた。 ・ 地域運営組織の行う独自事業について、環境や福祉、防災など重要度は高いものの満足度の低い取組に焦点を当て、重要度が相対的に低い取組については、類似する活動を集約するなどの見直しを行った。 <p>表 評価が高かった活動と理由(一部抜粋)</p> <table border="1" data-bbox="730 874 1386 1139"> <thead> <tr> <th>伊手地区敬老会</th> <th>空き家対策講座</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>重要度:とても重要 4点</td> <td>重要度:とても重要 4点</td> </tr> <tr> <td>今後:このまま継続 4点</td> <td>今後:このまま継続 4点</td> </tr> <tr> <td>理由:参加率が良い。楽しみにされている。</td> <td>理由:重要性を理解する機会になっている。</td> </tr> <tr> <td>課題:祝う側が減るため、やり方を変える必要がある。</td> <td>課題:利活用の視点を盛り込んではどうか。</td> </tr> </tbody> </table> 	伊手地区敬老会	空き家対策講座	重要度:とても重要 4点	重要度:とても重要 4点	今後:このまま継続 4点	今後:このまま継続 4点	理由:参加率が良い。楽しみにされている。	理由:重要性を理解する機会になっている。	課題:祝う側が減るため、やり方を変える必要がある。	課題:利活用の視点を盛り込んではどうか。
伊手地区敬老会	空き家対策講座										
重要度:とても重要 4点	重要度:とても重要 4点										
今後:このまま継続 4点	今後:このまま継続 4点										
理由:参加率が良い。楽しみにされている。	理由:重要性を理解する機会になっている。										
課題:祝う側が減るため、やり方を変える必要がある。	課題:利活用の視点を盛り込んではどうか。										
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の話し合いを通じてコミュニティ計画の見直しに取り組むとともに、組織の在り方の見直しも実施した。具体的には、従来の部会からプロジェクトに取り組む委員会への改編や、活動を継続できない場合の縮小も念頭に置いた組織づくり、少人数でできることを小規模なグループで実施するなどの体制構築を進めることができた。 										
<p>今後 取組みたいこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10~20年先ではなく5~10年の期間で考えて成果を出せるような特別プロジェクトを実施し、活力ある地域の実現を目指すとともに、現在の目標年度(令和6年度)の次の展開を見据えて、自走できる組織づくりに取り組む。 ・ 地域活動の拠点の整備を契機として、更なる活動の活性化を図る。 										

【概要】

立地自治体	岩手県紫波町	人口規模	約8,700人		
設立年度	令和元年度	活動エリア	小学校区と概ね一致する		
構成団体	構成団体	市民活動団体	体制	事務局の中に役員も含まれている	
	協力団体	地域の子ども・青少年育成に関わる団体 事業所 行政関係機関	法人格の有無	有(NPO法人)	
			詳細	役員	3名(うち非常勤・有償2名、非常勤・無償1名)
				役員以外	2名(うち非常勤・有償2名)
ホームページなど	https://furu-machi.com/top				

【具体的な活動内容】

【子育て支援、子育て支援】

- ・ 地域と連携し、体験活動を取り入れた学童保育を運営(ヤンチャークラブ)や、4~6年生および中学生の放課後学習支援(スイッチクラブ)、緊急時の在宅学童に対する支援(SOSダイヤル)などの事業を運営し、より地域のニーズに沿ったこどもの居場所づくりに取り組んでいる。また、町とも連携しながら町営の学童保育事業を補完する役割を担っている。

【地域ニーズの調査と改善】

■住民アンケート調査を通じたニーズの把握

- ・ 「古館地区住民全員アンケート調査」を実施し、古館地区全体の集計のほか、自治公民館や行政区毎(19)の個別分析を通じて、地域のニーズを把握している。

■公民館窓口のミニ相談

- ・ 公民館の窓口業務の一部を受託し、住民の困りごとを聞く場をつくり、解決につなげる活動を行っている。また、公民館が把握した住民のニーズを共有してもらい、活動につなげている。



出典: 古館まちづくりの会 資料

■団体サポート

- ・ 活動が形骸化していたり、担い手が不足している団体の話し合いの場づくりや活動の棚卸し、地域への情報発信などのサポートを実施している。
- ・ 団体の事務局の代わりに帳簿作成や文書、資料の作成をサポートしている(事務局おたすけ隊)。

【デジタルツールを活用している取組事例】

<p>取り組み</p>	<p>多世代の人材を活かしたまちづくり活動</p>
<p>経緯・狙い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題への取組方針を検討するうえで、当初は高齢世帯に対して支援を行うことを考えていたが、地域ニーズを整理するなかで、子育て世代などの若年世帯についても支援を求めている実状が把握できた。 若年世帯については、地域活動に参加することは難しい年代だが、若年の理事のアイデアを活用しながら、若い方の困りごとの解決に力点を置いた事業を展開することとなった。
<p>取組の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> 20～30歳代のメンバーのアイデアに基づき、中高年のメンバーが実行部隊となり、ICTを活用した地域活動などに取り組んでいる。WEB会議ツールの活用や、日中働いている方でも参加しやすい時間帯に理事会を開催するなど、多様なメンバーが参加しやすい工夫を行っている。 高齢者がスマートフォンを活用して、支援者に対して体調を報告することで、ICTを通じて独居高齢者の見守りを行ったり、体調の悪い方を発見して、家族につなぐなどの取組を実施している。 このため、高齢者などのデジタル弱者を対象にしたスマートフォン講座を開催している。 古館地区防災ポータルサイトの作成・運用、維持管理を実施している。 若者世代を中心に全世代が楽しく地域活性化の取組に参加できるような活動を実施している。 <div data-bbox="1512 774 2101 1037" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1512 1053 1881 1093">出典：古館まちづくりの会 資料</p>
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 当初は、支援者を通じた見守り活動を行っていたが、支援者の負担が大きかったことから、支援対象である高齢者にスマートフォンの使い方を教えることで負担を減らすことができた。 具体的には、若年世帯が講師となったスマホ講座を開催し、高齢者から直接家族に安否確認を行うなど、従来の見守り活動を改善することができた。
<p>今後 取組みたいこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、子育て世代のニーズの把握や課題の抽出に取り組みつつ、地域の困りごとを解決するための話し合いの場づくりのサポートを実施していく。 緊急時における高齢者支援の迅速化のため、2次元コードを活用した情報伝達方法等の検討を行う。

【概要】

立地自治体	石川県七尾市	人口規模	約2,500人
設立年度	平成20年度	活動エリア	小学校区と概ね一致する
構成団体	構成団体	法人格の有無	無
	協力団体	体制	役員とは別の事務局体制を確保
	自治会・町内会 地域活動団体 事業者 教育・福祉	詳細	役員 13名(うち非常勤・有償1名、非常勤・無償12名)
	事業者 行政	役員以外	7名(うち常勤・有償4名、非常勤・有償3名)
		ホームページなど	https://notojima-chiiki.com/

【具体的な活動内容】

【高齢者等の生活支援】

- 弁当配達・給配食サービスとして、月に1回、有償ボランティアにより、集会所で出張コミュニティカフェを実施している。
- 買い物支援・移動販売として、地域運営組織が販売事業者と協定を締結し、島内の高齢者のニーズを踏まえたルート伝えて、販売事業者が移動販売を実施している。当初は実証実験として実施していたが、地域運営組織が引き継いで継続している。




【子ども支援・子育て支援】

- 月に2, 3回の頻度で、地域の小学生を主な対象として、コミュニティセンターでものづくりや地域の文化を学べる体験教室「島っ子クラブ」を実施している。令和4年度には、ずんだ餅体験、スラックライン体験など、毎回十数人程度が参加するイベントを実施している。
- 幼保園・小学校と連携して「能登島こども会議」や学習田での田植・稲刈体験などを実施し、こどもが地域を知る機会を提供している。



出典：能登島地域づくり協議会 資料

【自主事業の実施による収入確保に向けた取組事例】

<p>取組み</p>	<p>のと島クラシカタ研究所の設立を通じたコミュニティビジネスの実施</p>	
<p>経緯・狙い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域運営組織としての安定した基盤づくりの観点から、行政に頼らない自主財源の確保に取り組んでおり、コミュニティビジネスに積極的に取り組んでいた。 令和元年6月には、コミュニティビジネスを担う部分について、実働部隊として責任と意思決定を明確化してスムーズに事業を進めるため、一般社団法人「のと島クラシカタ研究所」を新たに設立し、主に物販や観光をはじめとする事業の企画・運営を行うこととなった。 	
<p>取組の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活や文化、自然などが楽しめるコンテンツがなく、島外からの来訪者の訪問先は水族館や温泉が中心となっていたが、子供向けのキャンプなどのプログラムを提供するなど、島の魅力を伝える活動を実施することとした。 地域限定の旅行業免許を取得し、島の漁業を体験する勉強型のプログラム(魚道)や、ゴルフ客を対象とした島内のゴルフ場・民宿のセットプランの販売を行った。 コメを中心とした島内の産品を「まあそいブランド(まあそい=豊かな、良く稔った)」として統一ブランド化し、販売するとともに、お土産の商品開発にも取り組んだ(まあそいおみやげ)。 	 <p>出典: 能登島地域づくり協議会 資料</p>
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 物販の年間売上が約200万円となり、今後のコミュニティビジネスの活動資金を確保できるようになった。 着地型の体験プログラムを販売した結果、島内の事業者へ利益を還元して、地域経済に貢献できるようになった。 活動を通じた地域の事業者との新たな連携より、地域運営組織の新たな活動の幅が広がった。 	
<p>今後 取組みたいこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関の縮小に備えて、効率的かつ利便性の高い形で「地域の足」を確保するデマンド交通の実証実験や、運用方法やコスト、島民のニーズ調査などを進めている。 耕作放棄地の発生が重大な地域課題となっていることから、解決に向けた取組を検討していく。 移住体験住宅とセットで耕作放棄地を借り上げ、農業を教える体制を構築して、農業に関心を持つ移住希望者に対して、魅力的な移住促進プログラムを提供することを検討している。 	

【概要】

立地自治体	三重県伊勢市	人口規模	約7,000人
設立年度	平成17年度	活動エリア	小学校区と概ね一致する
構成団体	構成団体	法人格の有無	無
	協力団体	体制	役員とは別の事務局体制を確保
	・自治会・町内会(7団体) ・地域活動団体(4団体) ・事業者(6団体) ・教育・福祉等(3団体)	詳細	役員
	・教育・福祉等(3団体) ・行政関係(1団体)		役員以外
		ホームページなど	http://www.kousei-machi.sakura.ne.jp/sumikaindex.html

【具体的な活動内容】

【高齢者等の生活支援】

- ・「生活お助け隊」(生活支援サービス)の運営として、介護サービスでは受けられない、ちょっと困ったときの生活支援サービスを実施している。
- ・主な支援内容は、家庭内の掃除、皿洗い、家具の組み立て、電球の交換、庭の草引き、墓掃除等の簡単な作業、話し相手、通院の付き添い、宅配・買物代行等となっており、年間約120～170件の利用がされている。
- ・その他には、高齢者の日常の困りごとに対して専用電話による相談対応を行っている。


【学習支援】

- ・当初はサマースクールと連携していた学習支援の取組について、サマースクールの事業終了に伴い、地域運営組織の支援員が学習支援を継続している。
- ・小学校の協力のもとで、教職員OB等からなる支援員が小学校の会議室などで学習支援を行い、1日平均60人が参加するなど人気のある活動となっている。

【安全・安心】

- ・地域と学校が連携して実施している防災訓練については、地域と学校との連携の在り方を確認・検討する機会となっているほか、子どもたちに自分の命は自分で守る意識と実践的な態度を育む貴重な機会となっている。

【住民の声を反映している取組事例】

取り組み	市内の空き家の有効利用「厚生すみか」
経緯・狙い	<ul style="list-style-type: none">• 区内には空き家が多く、少子化や空洞化が進んでいたことから、「人の集まる賑わい」を取り戻すため、空き家に関する調査・研究を実施した。• 30～40代の若い世代が中心となった取組体制とし、地域運営組織を構成する各町内から不動産関係、建設関係、司法書士などの専門知識を有する人材が代表者として関わった。
取組の概要	<ul style="list-style-type: none">• 活動区域内の各自治会と連携した「空き家相談会」を実施して、空き家問題に対する地域の情報やニーズの丁寧な把握を行った。• 地域運営組織の担当者と近隣住民との日々のコミュニケーションなどにより、空き家が発生する前段階の相談・悩み事の受け皿としての役割を担った。また、空き家や空き地の利活用にむけたマッチングを行うことで、早めの課題解決につながった事例もあった。• その他には、厚生地区内の空き家・危険倒壊家屋の現地調査等を通じて整理した空き家の情報について、行政の担当者へ伝達することで、行政による取組の実施を働きかけた。  <p data-bbox="1601 965 2027 997">出典：厚生地区まちづくりの会 資料</p>
成果	<ul style="list-style-type: none">• 接道の問題を抱える地区や敷地の抱える課題に対しては、メンバーの有するネットワークで隣接する敷地の所有者同士の話し合いを促し、小規模な区画整理を行うなど、課題解決に向けた動きに繋がっている。• 営利目的の民間事業者ではなく、公的な役割を担う地域運営組織が関わることで、地域住民の信頼を得やすく、マッチングも成功しやすくなった。• 空き家・空き地の利活用の促進に向けて、行政との連携体制の構築が進められている。
今後 取組みたいこと	<ul style="list-style-type: none">• 子どもをはじめとする学区内の人口の増加、にぎわいの創出に向けた取組を継続し、防犯・防災・景観に対する施策や取組との連携を深める。• 域外からの移住の候補地として選んでもらうべく、行政の移住担当課やタウンマネージャーと連携し、移住者向けの説明会を実施するなど、新たな動きに繋がるような取組を行う。

【概要】

立地自治体	滋賀県大津市	人口規模	約18,800人
設立年度	令和2年度	活動エリア	小学校区と概ね一致する
構成団体	構成団体	体制	無
	協力団体	法人格の有無	役員が事務局業務を担っている
	自治会 地域活動団体 市民活動団体 事業者 教育・福祉等	詳細 役員	5名(非常勤・無償5名)
	教育・福祉等	役員以外	4名(非常勤・有償4名)
		ホームページなど	https://sites.google.com/hirano-machikyo.com/machiyo-hirano/

【具体的な活動内容】

【住民交流】

- 「ひらの交流委員会」により、交流イベントなどを実施しているが、コロナ禍以降は活動に制約を受けているため、屋外で実施可能なワークショップなどを中心に取り組んでいる。
- 具体的には、青空市やビアガーデン等のイベントを実施しており、中期的にはまちづくり協議会を構成する3地区の地区間交流、長期的にはコミュニティバスの運行などの地域課題解決に向けた取組を行う方針としている。

【安全・安心】

- 防災訓練・研修として、まちづくり協議会が主体となった安全安心フェスタを実施しており、消防団(構成団体)と消防、警察、自衛隊との連携により、子どもや高齢者向けの防犯・防災・交通安全の啓発に取り組んでいる。

- その他、日々の取組として防犯パトロールや登下校の見守り活動を実施している。

【地域環境整備】

- 地域の美化・清掃活動として、まちづくり協議会が主体となり、地域内に30か所程度ある児童遊園地の草刈りやメンテナンスに取り組んでいる。
- 防犯パトロールとあわせて、参加する住民が無理のない範囲で活動できるよう、登下校時の見守り活動と併せてゴミ拾いを行うなど、負担軽減に努めながら取り組んでいる。

【組織・活動内容の見直しに向けた取組事例】

<p>取り組み</p>	<p>ひらのみらいづくり委員会(まちづくりのすそ野を広げるための取組を実施するまちづくり協議会の組織)における活動</p>
<p>経緯・狙い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域運営組織を構成する団体のメンバーの高齢化や担い手の重複により、従来の部会における縦割りの意思決定の仕組みでは、地域課題への対応がしにくい状況となっていた。 地域運営組織の組織改革を通じて、横断的な地域課題への対応を可能とする7つの委員会に再編し、「ひらのみらいづくり委員会」では、これまで地域活動に参加してこなかった方々を対象として、まちづくりのすそ野を広げることをテーマとした活動に取り組んできた。
<p>取組の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> SNSを使いこなして情報発信を行うなど、地域活動への新たな参加者を募るためのプロジェクトチームが中心となって、若者や女性、勤労者、子育て世代、外国人など、これまで、まちづくり活動への参加が難しかった層をメインターゲットとした情報発信に取り組んだ。 具体的にはプロジェクトチームが主体となり、若者交流会やみらいづくりフォーラムの開催、学区イベントの支援協力等を実施した。 校区内には小学校から大学までの教育機関がそろっており、これらの機関と連携して多世代間連携に取り組んでいる。子どもを主な対象として、「こんなことをしたい!」というアイデアを引き出し、その実現のために大人がサポートしていくような、新たな活動にも取り組んだ。 <div data-bbox="1198 735 2094 1061" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1198 1077 1668 1109">出典: 平野学区まちづくり協議会 資料</p>
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 従来の部会ではない委員会を単位とした活動や取組が増え、縦割りの組織の枠を超えた自由な活動が本格化している。 ひらのみらいづくり委員会については、SNS等をきっかけとして、徐々に新たな層のイベント参加者が増えており、イベント参加をきっかけとした、まちづくり活動への担い手の確保に向けた動きがみられている。
<p>今後 取組みたいこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり協議会の組織構成の見直しには、継続的に取り組む。 中長期的な活動計画の見直しにあたっては、子育て世帯など、地域の多様な声を反映できるよう、アンケートのみならず、様々な層の住民の声を直接聞き取りながら、新たな情報やアイデアを取り入れる。

【概要】

立地自治体	兵庫県明石市	人口規模	約12,600人	
設立年度	平成27年度	活動エリア	小学校区と一致する	
構成	構成団体	応援隊:102名 自治会 地域活動団体、教育・福祉等	法人格の有無	無
	協力団体	教育・福祉等	体制	役員とは別の事務局体制を確保
		詳細	役員	12名(うち常勤・有償2名、非常勤・無償10名)
			役員以外	7名(常勤・有償7名)
		ホームページなど		https://uozumimachikyo.com/

【具体的な活動内容】

【ふれあい・交流】

- ・ まちの将来像「世代間交流があたりまえのまち」の実現に向けて、うおずみ祭りや左義長、敬老会イベント、くすのん文庫、みんなde菜園などのふれあい・交流活動を実施している。



【ふるさと・未来】

- ・ 学校と地域が協働して「子どもを育む」コミュニテイスクール事業を本格化し、将来の地域を支える人材育成を目指している。
- ・ 具体的には、まちづくり協議会が中心となり、総合学習の時間を活用した授業への参加や出前授業等の実施、子どもが企画する地域イベントへの参加なども行っている。

【みまもり・安全】

- ・ 「子どもが安心して学び、遊ぶことができるまち」や「高齢者も障がい者も安心して住み続けられるまち」、「地域の防災、要援護者対策など、地域と人が安全安心を共有しているまち」の実現に向けた取組を実施している。
- ・ 防災訓練・防災懇談会など(校区自主防災対策本部)
- ・ スクールガード、青パト乗車(通学路安全対策会議)



出典: 魚住まちづくり協議会 資料

【地域計画(ビジョン)の策定・見直しに向けた取組事例】

取り組み

多様な世代に対するアンケート調査を通じて、既存事業の評価を実施し、その後の活動に反映

経緯・狙い

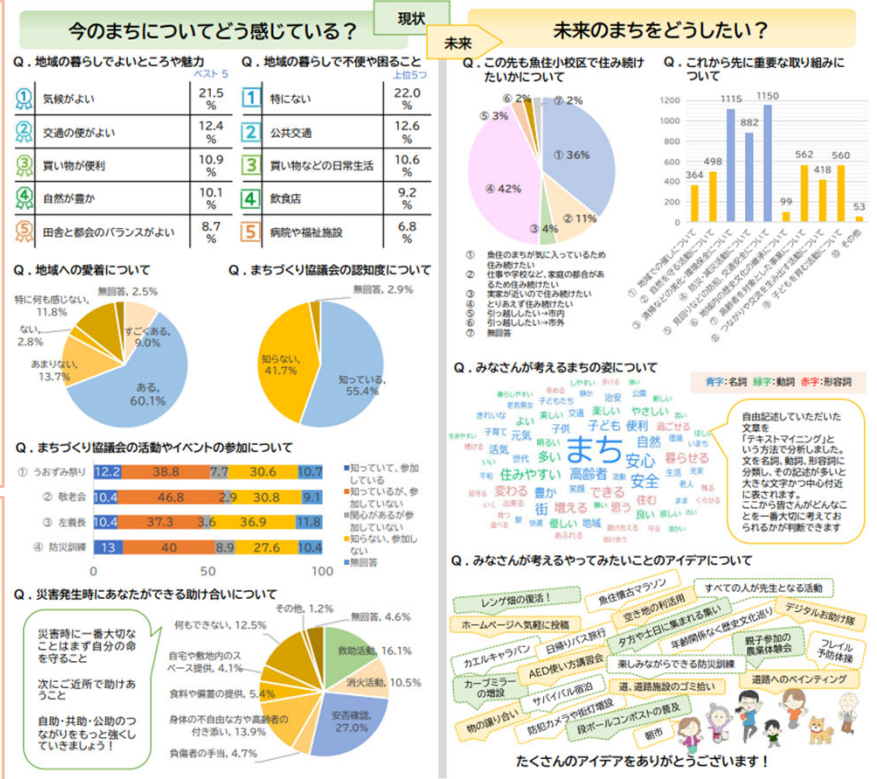
- 平成27年度に「まちづくり計画書」を作成し、事務局体制の充実を図りつつ、PDCAサイクルのなかで3年ごとの見直しを行っているが、組織の硬直化やメンバーの固定化・高齢化が課題となっていた。
- コロナ禍に伴う自治会等を含めた地域活動の停滞を契機として、今までの活動成果を振り返りながら、今後の活動へつなげるとともに、新しい人材の発掘を行うなど、協議会の組織・活動をステップアップさせることを目指した。

取組の概要

- 10年先を見据えた取組の方向性を検討するにあたって、魚住小学校区の全住民を対象として実施したアンケート調査の結果を踏まえて、役員間で話し合い、今後の活動方策を検討した。
- 住民の「やりたいこと」を新しい活動につなげていくための具体的な取組として、参加した方が今後やってみたい取組やアイデアを自由に話せる「くすのん広場」を定期的に開催した。
- 当初はコミュニティセンターを主な開催場所としていたが、認知・普及の高まりを受けて地域の様々な場所で話し合いの場を持つ動きに繋がった(サテライトくすのん)。

成果

- 出されたアイデアをもとに、プロジェクトチームが主体となり実現した活動がある(鴨谷掘割緑地公園清掃など)。



出典：魚住まちづくり協議会 資料

今後取組みたいこと

- 一部の部会をプロジェクトチームに再編する場合や、従来通りの部会を残す場合があるなか、新しい担い手に関わりやすく、柔軟に活動できる組織体制の実現に向けて、引き続き、協議会のステップアップに取り組む。

【概要】

立地自治体	兵庫県川西市	人口規模	約10,800人	
設立年度	平成9年度	活動エリア	小学校区と概ね一致する	
構成団体	構成団体	自治会	法人格の有無	無
	協力団体	地域活動団体:スポーツクラブ21・人権啓発推進委員会・民生児童委員会他8団体 事業者:社会福祉法人正心会 教育・福祉等:子ども園・小学校・中学校他	体制	役員が事務局業務を担っている
		詳細	役員	4名(非常勤・無償4名)
			役員以外	その他
		ホームページなど		https://kamokomi.site/

【具体的な活動内容】

【住民交流】

- 従来、自治会単位で参加を呼びかけていた運動会や文化祭は、自治会会員の減少や役員の高齢化、担い手不足により、継続開催が難しくなっている。そうした状況のなか、令和5年度の加茂まつりは、自治会会員以外の住民全戸に案内を配布するなどの工夫により、1,500人が参加するイベントとなったことから、これからもホームページやメールマガジンで広く情報を発信して地域住民が参加しやすい活動を継続していく。



出典:加茂小コミュニティ協議会 資料

【子ども支援・子育て支援】

- 子どもの学習支援や学童保育、料理教室などの取組を地域運営組織の部会が主体となり実施している。



【安全・安心】

- 年2回、消防署と連携した避難訓練の実施や地域組織の自主防災会により避難所開設の図上訓練を通して、災害発生時の地域運営組織の組織的対応について検討を実施している。
- 学校との連携を通じた児童生徒の登下校の見守り活動を実施している。

【地域計画(ビジョン)の策定・見直しに向けた取組事例】

<p>取り組み</p>	<p>地域別計画の進行管理・評価事業を通じた事業の見直し、第2期計画への反映</p>
<p>経緯・狙い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域運営組織は自治会の活動の多くを引き継いで従前の活動を継続していた(自治会⇒コミュニティ)が、地域運営組織単位で作成する地域別計画の振り返り・見直しが十分できていなかった。 既存事業の改善や、新たに行う取組の検討に向けて、地域別計画の進行管理や評価を実施することとした。
<p>取組の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> PDCAサイクルの考え方を導入して、地域運営組織が行う取組の改善点を検討することで、今後の取組の充実に活かすことができた。 地域運営組織の行うすべての事業を振り返り、趣旨の類似・重複する取組や活動の整理・統合を検討した。 その中で、意義が大きいと認められた取組については、重点プロジェクト化するなど、メリハリのある活動に向けた見直しを推進した。 <div data-bbox="1218 560 2130 1050" data-label="Diagram"> <p>The diagram illustrates the PDCA cycle with four main stages in ovals: Plan (計画), Do (実行), Check (評価), and Action (見直し). Each stage is accompanied by a box containing a specific activity and its context:</p> <ul style="list-style-type: none"> Plan (計画): "これをやってみよう ※加茂小地域地域別計画の策定" (Let's try this ※ Formulation of the regional plan for Kamogaki Elementary School). Do (実行): "これをやった ※加茂小学校区コミュニティ推進協議会の取組み" (We did this ※ Activities of the Kamogaki Elementary School Community Promotion Association). Check (評価): "そしてどうなった ※加茂小学校区コミュニティ推進協議会による評価" (And how it turned out ※ Evaluation by the Kamogaki Elementary School Community Promotion Association). Action (見直し): "こう変えてみよう ※加茂小学校区コミュニティ推進協議会による見直し" (Let's change it like this ※ Review by the Kamogaki Elementary School Community Promotion Association). <p>Blue arrows connect the stages in a clockwise cycle: Plan to Do, Do to Check, Check to Action, and Action back to Plan.</p> </div> <p>出典:加茂小コミュニティ協議会 資料</p>
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> イベントの集客には、年度ごとに波があるため、その取組が「成功したか失敗したのか」や「地域にとっての重要度」などを評価することには難しさもあり、大きな活動の見直しを行うことには困難も伴うが、PDCAサイクルの導入により、できる限り多くの住民に納得してもらえるような活動計画等の見直しに取り組んでいる。
<p>今後 取組みたいこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域運営組織を構成する自治会の役員の高齢化、担い手不足が顕在化するなかで、若い住民の参画を募りたい。 概ね40代の比較的若い世代の地域活動への参画を進めるため、住民全般からの意見を把握しながら、子ども・子育てをテーマにした取組を充実させることが今後の課題となっている。

【概要】

立地自治体	兵庫県三田市	人口規模	約10,800人
設立年度	平成27年度	活動エリア	小学校区と概ね一致する
構成団体	構成団体	法人格の有無	無
	自治会 地域活動団体 市民活動団体 事業者 教育・福祉等	体制	役員とは別の事務局体制を確保
	協力団体	教育・福祉等、行政、個人等	役員 9名(うち非常勤・無償4名)
		役員以外	4名(うち常勤・有償4名)
		ホームページなど	http://yurinoki.club/ Instagram @yurichika0511

【具体的な活動内容】

【高齢者の生活支援】

- 配偶者が亡くなり、庭の手入れが困難な高齢世帯に対して、「ゆりのき生活サポート倶楽部(ゆりサポ)」を立ち上げ、剪定や草刈りなどの生活支援を実施しており、利用者が増えている。

【生涯学習・健康づくり】

- フリー広場では「折り紙教室」や「編み物教室」を開催しており、7種類のコミュニティカフェを運営している。
- 高齢者向けの「百歳体操」は、参加人数が増えてきたので開催回数を増やし、若い世代向けには「リフレッシュ体操カフェ」を開催している。



フリー広場(折り紙、編み物)

【子ども支援・子育て支援】

■ゆりっこ広場・ゆうゆうクラブ

- 児童数1,000人を超える大規模校であるゆりのき台小学校に通う全ての子どもが、様々な体験を通じて多様な人や価値観と出会い、自分で考え行動ができるよう、地域のボランティアによる小学生の居場所づくりを平日毎週2回、日曜日毎月1回行っている。



ゆうゆうクラブ

■夏休み期間の子どもの居場所づくり

- 夏休み期間の平日に、地域の方や学生などがスタッフとして勉強や遊びを見守りサポートする居場所づくりを実施しており、21日間で延べ630人(R5)を預かったところ。

【地域計画(ビジョン)の策定・見直しに向けた取組事例】

<p>取り組み</p>	<p>住民タウンミーティングの開催を通じた「中長期計画」の作成と活動の企画立案</p>
<p>経緯・狙い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ゆりのき台は、住民の年代の偏りを減らすために三期に分けて分譲されたことから、1～3丁目は高齢世帯が多く、4～6丁目は子育て世代が多くなっており、世代によって異なる住民ニーズを考慮することが必要な地域となっている。 様々な活動がされてきたが、これまで中長期的なビジョンがなかったことから、役員交代に伴って活動が立ち消えになってしまうこともあった。そこで1年間をかけて「中期活動計画」を作成することになった。
<p>取組の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ニュータウンであるゆりのき台では、隣近所の方の顔がわからないということも珍しいことではなく、災害や事故、急病の際、互いに声をかけて支え合えるように「顔が見える関係づくり」が重要であると考え、タウンミーティングを開催し、理事だけでなく地域住民の方と課題を共有しながら、3～5年間の中長期的な計画を作成した。 タウンミーティングは、世代共通の課題として環境(ごみ問題)や防犯をテーマとして、それぞれ2～3回、月1回のペースで開催した。 当初は、高齢者の参加が多いと想定していたが、若い世代の参加もみられた。 共働き・子育て世帯などは、回覧板を十分見られずに行政についての情報が不足がちであるが、全世帯にポスティングしている広報紙(フリーペーパー、イベントの告知やボランティア募集に活用)等を通じて参加者を募ったところ、いろいろな立場の方が参加して大いに議論が盛り上がった。 <div data-bbox="1736 694 2105 957" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: right;">出典:ゆりのき台地域活動協議会 資料</p>
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 環境をテーマとしたタウンミーティングでは、地域内を流れる平谷川の桜並木の病気や、県や市による河川管理の限界などの問題意識を参加者で共有することができた。また、せつかくの自然環境が活かされていないことから、「平谷川を楽しもうプロジェクト」を立ち上げ、市内にある「兵庫県立人と自然の博物館」の研究者の協力も得ながら、イベントやフィールドワークの開催につながった。さらに、公園管理の委託を受ける団体が立ち上がり、公園の草刈りや低木剪定の実施にもつながった。 SNSを活用して理事会メンバーの日ごろの情報共有や対話を活発にしたことで、月1回の理事会での検討や方針の決定を迅速に行うことができるようになり、広報誌への記事掲載もスムーズに行えるようになった。
<p>今後 取組みたいこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ゆりのき台の地域活動については、国の子どもの居場所づくり事業がきっかけとなり、学校やPTA、地域が連携することでスタートし、教育や福祉への関心が高い保護者も多く、コミュニティスクールの活動も活発である。最近では、関西学院大学のボランティアグループと連携したイベントを開催したり、地元企業へのスポンサー募集を計画するなど、「できる時にできることを無理なく楽しく」をモットーに、今後も幅広い層で運営していきたい。

【概要】

立地自治体	広島県廿日市市	人口規模	約500人	
設立年度	平成30年度	活動エリア	旧小学校区と概ね一致する	
構成団体	構成団体	法人格の有無	無	
	協力団体	体制	役員が事務局業務を担っている	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民全世帯 	詳細	役員	4名(常勤・有償1名、非常勤・無償3名)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会・町内会 11団体 ・ 子ども・青少年育成に関わる団体 1団体 ・ 福祉活動に関わる団体、民生委員・児童委員 4人 ・ 防犯・防災・交通安全に関わる団体 1団体 ・ 社会福祉協議会、福祉サービス事業所 3団体 ・ 行政機関、警察 		役員以外	1名(非常勤・有償1名)
		ホームページなど	https://sites.google.com/view/asahara-asamira/home	

【具体的な活動内容】

【住民交流】

- ・ 遊休農地等を活用した都市農村交流として、遊休農地を活用したさつまいもの植え付け・収穫体験を実施している。
- ・ ターゲットは都市部のファミリー層で、定期的かつ長く地域と関わってもらうため、星空観測会等の他の行事にも参加を呼びかけている。


【高齢者支援、居場所づくり、交流促進】

- ・ 大手スーパーチェーンと連携し、移動販売を行うとともに、移動販売と連携する形で無人店舗を運営している。

- ・ 無人店舗は、市と浅原の未来を創る会、大手チェーンが買い物支援に関する覚書を締結し、浅原交流館内に設置している。
- ・ あさはらビジョン(後述)策定がきっかけとなり、地域の生活課題に応じた新たな取組(例えば、近隣精米所の廃止に伴う、敷地内への精米機の導入など)を行っている。



【地域計画(ビジョン)の策定・見直しに向けた取組事例】

取り組み	「あさはらビジョン2023 ～あなたは浅原で何したい?～」の策定及び地域の生活課題解決に資する事業の企画立案
経緯・狙い	<ul style="list-style-type: none"> 浅原の暮らし心地や生活課題を見える化しようと実施した「浅原まちづくりアンケート」結果と、生活拠点である「あさはらまちづくり交流センター」の指定管理を受けることについて、すべての町内会で報告会を行って地域の機運の醸成を図りながら、まちづくりの羅針盤となるビジョンづくりを始めた。「誰もが暮らし続けられる浅原」をコンセプトに、地域住民をはじめとする浅原にご縁のある様々な人々を呼び込んだり、市職員も地域づくりの進め方を学べるよう参加する過程を組むなど、自分たちのドラマを創り、1人で、仲間で、具体的な活動につなげることを目的とした。
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ビジョンづくりの過程において、「あさはらビジョンづくりワークショップ」を開催し、話し合い、対話を重ねた。 ワークショップは合計3回開催し、参加者は、地域住民や浅原にご縁のある人たちで、企画は、浅原の未来を創る会(あさみら)、市と社会福祉協議会の職員、県立生涯学習センター職員によるチームで考え、当日の運営は、これらに外部のファシリテーター、あさみら運営スタッフが加わった。前述のアンケート報告会を各地域で丁寧に実施したことによって、趣旨をご理解いただき積極的な参加につながった。若者から高齢者、移住者等、様々な人達が集って地域の未来を語り、賑やかな話し合いをすることができた。当ワークショップがきっかけとなって、別の話し合いの場につながるなど、地域づくりに「参加しても良い」「何をやっても良い」という空気感が創られた。 ビジョンの根幹に「試しにやってみる」意識があり、様々な地域の生活課題に対応する事業が立ち上がった。例えば、精米機の設置や旧小学校のグラウンドの芝生化、耕作放棄地の活用など、分野も多岐に渡り、その後も、新たなアイデアがどんどん出てきている。 地元出身のイラストレーターによる冊子づくりや地域の人それぞれが自分が得意なことで各種活動に関わっており、適材適所な人が集まるようになっている。  <p>出典: 浅原の未来を創る会 資料</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> 一連の取組を通じ、住民の意識変革につながり、何気なく見えていた地域に対して、自分も何かをできるのではなにかという当事者意識が醸成され、地域のことを自分ごとにする人が増えた。 行政も地域と一緒に考え、議論したことによって、両者の距離感が縮まるとともに、職員研修としても効果があった。
今後 取組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ビジョンづくりの課程で醸成された地域の雰囲気大切にしながら、「イラストで語り合う」「仲間と企画する」「試しにやってみる」というビジョンの使い方に沿って月1回開催している「浅原の縁側(ビジョンおしゃべり会)円卓会議」を中心に、これからもワクワクしながら、気軽に話し合い、お互いに影響を与え合い、自分も変わっていくし、地域も変化していくという代謝が起こり続けるよう浅原のみんなと楽しく活動していきたい。

【概要】

立地自治体	広島県三次市	人口規模	約3,300人	
設立年度	平成16年度	活動エリア	中学校区と概ね一致する	
構成団体	構成団体	法人格の有無	無	
	協力団体	体制	役員とは別の事務局体制を確保	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会・町内会 ・ 子ども・青少年育成に関わる団体 ・ 生涯学習・文化・スポーツに関わる団体 ・ 福祉活動に関わる団体 ・ 防犯・防災・交通安全に関わる団体 ・ 緑化・美化に関する団体 ・ ボランティア団体 ・ 保育所、幼稚園、小中学校 ・ 行政関係機関 等 	詳細	役員	6名(非常勤・有償2名、非常勤・無償4名)
		役員以外	9名(うち常勤・有償9名)	
		ホームページなど	http://kisajichi.com/	

【具体的な活動内容】

【子ども支援・子育て支援】

■ 教育と文化の薫る 教育の郷づくり

- ・ 学校との協働による教育環境づくりや新たな文化の創造、担い手や後継者の人材育成を実施している。
- ・ 保育園から高校までが町内にあることが地域の魅力の一つとなっていることから、その環境を活かして、地域の教育環境づくりを支援している。また、学校行事と地域行事を一緒に実行するなど、双方の参加者を増やしたり、効果を高めたりするための調整等も行っている。
- ・ 地域活動の担い手育成のため、地域団体に対する補助金を拠出しており、当補助金をもとに2年間活動に取り組んだ団体は、連合会で「頑張る団体」として認定している。

【地域産業活性化・地域環境整備・その他】

■ 享受から行動へ 共創の郷づくり

- ・ 吉舎ふれあい祭り(例年1万人前後来訪するお祭り)の開催や神社の祭りの支援等を行っている。
 - ・ 環境保全関係団体との連携による地域の美化や希少動植物の保全活動を行っている。
- 暮らしを支える 定住の郷づくり
- ・ 人口ビジョンに基づく定住促進のほか、福祉見守りや地域環境整備、防犯・防災拠点機能の強化に向けた取組を集落支援員と連携しながら実施している。

【地域計画(ビジョン)の策定・見直しに向けた取組事例】

<p>取り組み</p>	<p>新吉舎町まちづくりビジョンの策定、情報交流会の開催</p>
<p>経緯・狙い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 旧まちづくりビジョンが改定年を迎えたため、新ビジョンを策定するとともに、改めて活動内容を検証し、継続すべき活動を明確にするきっかけとした。また、活動間のつながりを整理し、より効果的な実施方法を検討するために、個々の活動を体系的に整理した。 地域団体間の活動内容の調整や情報共有のため、毎月第1月曜日に「朝のコーヒータ임情報交流会」を開催するようになった。
<p>取組の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自治体や関係機関、住民自治組織からなる「吉舎町まちづくりビジョン検討委員会」を設置し改定作業にあたった。 高校生をはじめとする広範囲な町民の参画による「まちづくりワークショップ」を開催するとともに学校の協力を得て実施した、小中学生の「まちづくりアンケート調査」など、次代を担う子どもたちの思いや願いを反映した、新「吉舎町まちづくりビジョン」を策定した。 ビジョンでは基本目標(将来像)として「教育の郷・定住の郷・共創の郷」づくりを通して誰もが幸せを実感できる持続可能なまちづくりを掲げ、その実現に向けた3つの基本方針を定めている。 上述の「情報交流会」を開催し続けていたことで、地域内各団体の連携基盤ができ、ビジョン策定時にも多くの住民が参画した。 <div data-bbox="1444 614 1769 1069" style="display: inline-block; vertical-align: top;"> </div> <div data-bbox="1803 614 2116 1061" style="display: inline-block; vertical-align: top;"> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">出典: 吉舎町自治振興連合会 資料</p>
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 情報交流会によって人とのつながりができ、例えば、これまでは住民の方と直接話をする機会の少なかった小中学校の校長先生と対話できる場が生まれたことで、まちづくりビジョン策定にも関与してもらうこととなった。 さらに、子どもたちを対象として企画した活動をすぐに校長先生に相談できるようになるなど、地域活動と教育活動の連携が強化された。
<p>今後 取組みたいこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> 移住者が地域内で店を開業するなどといった新たな動きがあるなか、そのような人達が地域に何らかの支援を求めた際に、実際に支援ができる体制を作っておく必要があると考えている。 地域の拠点店舗と地域内の各所をライブカメラ等でつなぎ、地域の魅力を集約して情報発信するなどして、定住促進や、移住者の店舗の支援にもつなげていきたい。

【概要】

立地自治体	山口県山口市	人口規模	約13,500人
設立年度	平成21年度	活動エリア	中学校区と概ね一致する
構成団体	構成団体	法人格の有無	無
	協力団体	体制	役員とは別の事務局体制を確保
ホームページなど	自治会、地域活動団体、 市民活動団体、事業者、教育・福祉等	役員	—
		役員以外	4名(うち常勤・有償4名)
ホームページなど	https://www.miyanoti.com/		

【具体的な活動内容】

【住民交流】

- ・ 域内に所在する山口県立大学と地域運営組織の連絡協議会を設立しており、情報交換及び住民と学生の交流事業を実施している。
- ・ 地域運営組織の支援のもとで、大学生による着物喫茶や、まちあるきイベントが実施されている。

【生涯学習・健康づくり】

- ・ 地域住民の高齢化の進行を背景に、地域運営組織が主体となって高齢者の健康福祉講座を実施している。
- ・ 年配の方を対象として、ウォーキングを通じた健康づくりや体力測定を実施している。

【防災・防犯・交通安全】

- ・ 子どもの安全対策は、地域住民の関心も高く、登下校時の見守り活動や子ども110番を通じた安全確保に取り組んでいる。
- ・ 地域運営組織が主導し、自治会や老人クラブと連携しながら、住民が空き時間などにビブスを着用して見守りに立つなど、無理なくできる取り組みを工夫して実施している。



出典：みやの地域づくり協議会 資料

【地域計画(ビジョン)の策定・見直しに向けた取組事例】

<p>取り組み</p>	<p>中長期的な地域づくり計画の更新を踏まえた、新たな事業の展開等</p>
<p>経緯・狙い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 5年間隔の地域づくり計画の見直しの時期に住民などを対象としたアンケート調査を実施し、地域の抱える課題や問題を把握することにより、多様な住民の声を聴き、新たな担い手を確保するための工夫につなげている。 調査を通じて把握した住民ニーズを計画づくりに反映するのみでなく、調査結果を部会で協議し、地域課題を解決するための新たな事業の検討に活用している。
<p>取組の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <p>■ 多様な住民の声を聴き、担い手を広げる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民アンケートの実施にあたっては住民500人を抽出して調査を実施し、町内会を通じて配布・回収を行って、8割以上の回収率を達成した。 可能な限り多様な声を集めるため、大学とも連携して男女比率や年代バランスを考慮するなど、幅広い意見を聴取するための工夫を凝らした。 地域運営組織の活動の高齢化・人材不足が進む中で新たな担い手や参加者を募る工夫を実施している。具体的には、地域運営組織の部会での活動報告を、ホームページ上で公開したり、興味をひきやすい広報チラシなどを頻度高く掲載するなど、なるべく多くの方の関心を引くような広報活動を実施している。 <p>■ 住民ニーズを踏まえた地域課題解決に向けた活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化が進むなかで地域内に買い物弱者が増加しており、買い物支援に対する要望が多いことが把握された。 住民ニーズを踏まえ、地域運営組織の活動エリア内の大学のキャンパス移転に伴う跡地活用の方針について、山口市に、取りまとめた地域の声を提案した。
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人材不足解消のため、リタイア世代を主なターゲットとしてボランティアグループ「みやの応援隊」を組成していく予定であるが、体力面に不安を抱える方も多くなか、無理なく得意なことをしてもらおうというコンセプトで男女を問わずに幅広い範囲でメンバーを登録していきたい。
<p>今後 取組みたいこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> 行政との更なる連携強化を図る。 地域は地域で盛り上げる。



出典：みやの地域づくり協議会 資料

【概要】

立地自治体	山口県下関市	人口規模	約15,900人
設立年度	平成27年度	活動エリア	2つの中学校区と概ね一致する
構成団体	構成団体	法人格の有無	無
	協力団体	体制	役員が事務局業務を担っている
	自治会・町内会、地域活動団体 事業者、教育・福祉等	詳細 役員	12名(うち広報担当・有償1名)
	行政	役員以外	1名(事務員・有償1名)
		ホームページなど	https://toyouramatidukuri.wixsite.com/kyougikai

【具体的な活動内容】

【地域環境整備】

■ 「川棚クスの森」の枯損に対する取組

- ・ 下関市のシンボルであり、国の天然記念物にも指定されていた「川棚クスの森」の枯損に対して、下関市と連携して枯損に対する取組の実施状況に対する住民説明会を開催している。
- ・ クスの枯れてしまった部分を、図工の作業用素材として近隣の小学校に加工用の材料を配布している。

■ みかんDeデート

- ・ 地域の人口増加を目指して地域運営組織が主体となった婚活の取り組んでいる。ミカンのなる時期に、15名ずつの男女がミカンの収穫をしながらデートをする。
- ・ カップル率が高く、参加者からの評判も高い。



【住民交流】

■ ものづくり作家展

- ・ 地域住民及び地域内に居住するプロの作家が参加する作家と地域住民の交流の場づくりに取り組んでおり、絵画や彫刻、版画、漫画、陶芸、染織などの多様な分野の作品が並び、地域の中学校の美術部なども参加する発表の場となっている。

【安全・安心】

- ・ 行政と連携した防災訓練では、地域運営組織が主体となった地域全体での防災訓練を実施しており、地域運営組織を構成する5地区で計100名以上が参加している。
- ・ その他、福祉後援会では、高齢の住民向けの講演や相談会を定期的で開催している。

出典：豊浦地区まちづくり協議会 資料

【地域計画(ビジョン)の策定・見直しに向けた取組事例】

<p>取り組み</p>	<p>中長期的な地域ビジョンの更新</p>																																												
<p>経緯・狙い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域運営組織の計画及び組織、活動内容を、住民の要望やニーズに沿ったものとすることを企図して、住民アンケートを実施するとともに、調査結果を踏まえて部会構成や地域ビジョンを検討した。 組織運営や地域ビジョンの更新にあたっては、住民ニーズや各部会のすり合わせを丁寧に行い、共通認識を持ちながら活動を行うよう努めている。 																																												
<p>取組の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域運営組織の設立後、部会の設立や地域ビジョンの策定に先立って住民意識調査アンケートを実施(平成27年度)し、世帯主だけでなく、女性や若い世代の意見も取り入れるよう工夫した。 初期の段階で住民の意見を把握するのみならず、地域運営組織を構成する5部会の運営にあたっては、自治会長を交えた会議を毎月実施して、部会間での意識のすり合わせや状況共有を図ることとした。 事務局の職員が中心となり、ホームページでの活動状況や会議結果の共有に取り組むことで、地域運営組織の活動内容を理解・納得したうえでの取組への住民の参画を求める体制とした。 現在、中長期的な地域ビジョンの見直しに向けた検討を行っているところであるが、改めて住民に対するアンケート調査を実施し、住民ニーズを反映した計画・組織体制の見直しを図るべく取り組んでいる。 <div data-bbox="1413 571 2136 997" style="text-align: center;"> <p>【取り組むべき課題】得票合計</p> <table border="1"> <tr><th>課題</th><th>得票合計</th></tr> <tr><td>働く場の確保</td><td>380</td></tr> <tr><td>少子化対策</td><td>180</td></tr> <tr><td>医療環境の充実</td><td>150</td></tr> <tr><td>農業の振興と担い手対策</td><td>140</td></tr> <tr><td>買物弱者対策</td><td>130</td></tr> <tr><td>独居高齢者の見守り</td><td>120</td></tr> <tr><td>家庭内介護・認知症対策</td><td>110</td></tr> <tr><td>空家の利活用</td><td>100</td></tr> <tr><td>山陰線乗継ぎ改善</td><td>90</td></tr> <tr><td>道の駅の整備</td><td>80</td></tr> </table> <p>【取り組むべき課題】優先度1位</p> <table border="1"> <tr><th>課題</th><th>優先度1位</th></tr> <tr><td>働く場の確保</td><td>250</td></tr> <tr><td>少子化対策</td><td>100</td></tr> <tr><td>医療環境の充実</td><td>80</td></tr> <tr><td>農業の振興と担い手対策</td><td>70</td></tr> <tr><td>買物弱者対策</td><td>60</td></tr> <tr><td>独居高齢者の見守り</td><td>50</td></tr> <tr><td>家庭内介護・認知症対策</td><td>40</td></tr> <tr><td>山陰線乗継ぎ改善</td><td>30</td></tr> <tr><td>空家の利活用</td><td>20</td></tr> <tr><td>道の駅の整備</td><td>10</td></tr> </table> <p>部会設定に配慮!</p> </div> <p style="text-align: right;">出典：豊浦地区まちづくり協議会 資料</p>	課題	得票合計	働く場の確保	380	少子化対策	180	医療環境の充実	150	農業の振興と担い手対策	140	買物弱者対策	130	独居高齢者の見守り	120	家庭内介護・認知症対策	110	空家の利活用	100	山陰線乗継ぎ改善	90	道の駅の整備	80	課題	優先度1位	働く場の確保	250	少子化対策	100	医療環境の充実	80	農業の振興と担い手対策	70	買物弱者対策	60	独居高齢者の見守り	50	家庭内介護・認知症対策	40	山陰線乗継ぎ改善	30	空家の利活用	20	道の駅の整備	10
課題	得票合計																																												
働く場の確保	380																																												
少子化対策	180																																												
医療環境の充実	150																																												
農業の振興と担い手対策	140																																												
買物弱者対策	130																																												
独居高齢者の見守り	120																																												
家庭内介護・認知症対策	110																																												
空家の利活用	100																																												
山陰線乗継ぎ改善	90																																												
道の駅の整備	80																																												
課題	優先度1位																																												
働く場の確保	250																																												
少子化対策	100																																												
医療環境の充実	80																																												
農業の振興と担い手対策	70																																												
買物弱者対策	60																																												
独居高齢者の見守り	50																																												
家庭内介護・認知症対策	40																																												
山陰線乗継ぎ改善	30																																												
空家の利活用	20																																												
道の駅の整備	10																																												
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域運営組織の活動への若い世代の参画や次世代の育成に向けて、自主財源の確保に取り組むこととなった。十分な財源確保は継続的な課題であるが、住民のニーズや役員との議論を通じた取組のなかには、軌道に乗りつつあるものもみられる(地元の特産品の販売や休耕田の活用など)。 地域住民に対する積極的な情報発信の一環として実施している移住者に対するインタビューを契機として、地域運営組織の担い手として参加する例もみられるようになった。 																																												
<p>今後 取組みたいこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> 過疎地域に指定されていることもあり、行政との一層の連携が今後の課題となっている。 空き家問題の解決に向けて、地域おこし協力隊員との連携に取り組むたいと考えている。 																																												

【概要】

立地自治体	香川県高松市	人口規模	約7,000人	
設立年度	令和元年度	活動エリア	小学校区と概ね一致する	
構成団体	構成団体	法人格の有無	有(NPO法人)	
	協力団体	体制	役員とは別の事務局体制を確保	
	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会・町内会→連合自治会がメイン ・子ども・青少年育成に関わる団体 ・生涯学習・文化・スポーツに関わる団体 ・福祉活動団体、民生委員・児童委員 ・防犯・防災・交通安全に関わる団体 ・女性団体 ・老人クラブ ・NPO ・ボランティア団体 ・経済団体 ・保育所・幼稚園・認定こども園 ・小学校・中学校 合計44団体 	詳細	役員	非常勤・無償1名
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所 ・社会福祉協議会・福祉サービス事業所 ・行政関係機関 		役員以外	常勤・有償2名
		ホームページなど	https://www.kawahigashi.net/	

【具体的な活動内容】

【生涯学習・健康づくり】

■ 生涯学習(子ども～老人)の実施

- ・ 活動拠点としている公民館の生涯学習事業を継続的に行ったり、文化活動や体育活動の実施団体等と連携し文化祭を開催している。

【子ども支援・子育て支援】

■ 子ども食堂

- ・ 主に経済的な困窮家庭に対して、学習支援とともに食事の提供を行っている。

【安全・安心、地域環境整備】

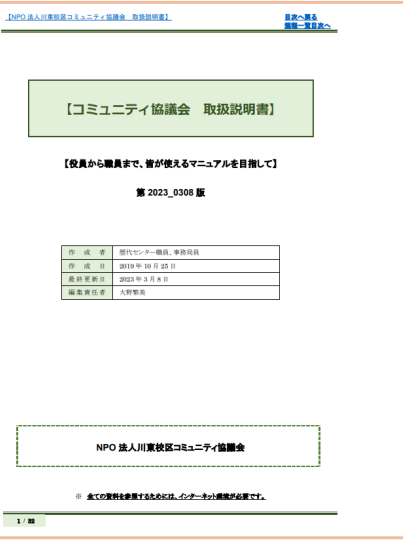
■ 災害時の避難行動要支援者のサポート

- ・ 高松市から提供される「避難行動要支援者名簿」をもとに、地域全体の要支援者名簿を作成するとともに、要支援者を中心に安否確認訓練や、避難訓練等を行っている。

■ 防犯パトロール・環境整備

- ・ 青色防犯パトロールのほか、小学校の朝のあいさつ運動や中学生の下校時の見守り等の活動を行っている。また、定期的に道路や河川敷等のゴミ拾い等を実施している。

【組織・活動内容の見直しに向けた取組事例】

取り組み	「協議会のトリセツ」策定	
経緯・狙い	<ul style="list-style-type: none"> 新たにボランティアに関与いただく可能性がある人に対して活動をアピールする際、協議会の活動内容を紹介する資料が必要であると考え、「なぜこの活動を実施するのか」といったレベルから説明できる資料を作成した。 組織目的の達成のためには、経営資源を把握し、効率的に使うことが肝要であることから、「トリセツ(コミュニティ協議会 取扱説明書)」の作成をきっかけに経営資源を内外に明示できるようにした。 	
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> 協議会発足時から、地域づくりに関する業務内容を記録し、事務局・センター職員の「引継書」を作成していた。当「トリセツ」は「引継書」をベースに作成したものである。 「トリセツ」作成にあたっては、協議会の概要と経営資源(ヒト、モノ、カネ、情報)が協議会内外から理解できるように留意した。 活動を「なぜ実施するのか」といったレベルから網羅的に説明するため、「高松市自治基本条例」における活動の位置づけなども説明し、活動を包括的に理解できるような内容とした。 活動を網羅的に説明しているため、ページ数がかかなり多くなり、紙媒体にすると分厚くなり必要な部分を検索することが困難であるため電子化した。 	 <p>出典：川東校区コミュニティ協議会 資料</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> 対外的に協議会の概要を説明しやすくなった。新規職員を募集する際にも、活動内容が可視化されているので、応募しやすくなったり、他団体とのコミュニケーションツールとして活用することで連携体制も築きやすくなった。 活動を進める中で都度、職員として大切にすべきことに立ち返ることができるようになった。 	
今後 取組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> データベースの検索システムを改良し、日常業務の中で検索後すぐに該当ページを表示できるようにしたい。 「トリセツ」を活用し、活動の内容をさらにオープンにすることで、公金を使って活動していることの透明性をアピールしたい。県外含む他の協議会に参考にしていただき、問い合わせ対応等を受けることで広がりを作っていきたい。 	

【概要】

立地自治体	高知県須崎市	人口規模	約700人	
設立年度	平成30年度	活動エリア	その他(小学校存在)	
構成団体	構成団体	法人格の有無	無	
	<ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センターあわ ・地域住民会議 ・小学校PTA ・保育園保護者会 ・婦人会 ・防災協議会 ・賢山会 	体制	役員とは別の事務局体制を確保	
協力団体	青壮会(30～60代の交流会)	詳細	役員	非常勤・無償5名
		役員以外	8名(うち常勤・有償2名、非常勤・無償6名)	
		ホームページなど	https://awa-susaki.jp/	

【具体的な活動内容】

【子ども支援・子育て支援】

■ 放課後子ども教室の運営

- ・ PTA、保護者会とともに、運動会や田植え体験、読み聞かせボランティアなどを実施するとともに、下校後の子どもたちの勉強を地域住民が指導する取組も行っている。

【地域産業活性化】

■ 特産品の製造・販売、流通促進

- ・ 地域の農産物等を加工した製品(「びわジャム」「黒ニンニク」「はちみつ」等)を製造・販売している。

- ・ 地域内にある耕作放棄地を活用して、にんにくやイタドリ、バタフライピー等の野菜を栽培し、流通販路の拡大や商品開発等にも取り組んでいる。

【地域環境整備・その他】

■ 空き家調査と移住促進

- ・ 空き家の状況を住民が手分けして調査し、空き家や貸家、売家マップ作成したり、空き家の管理や移住者等とのマッチングを行っている。
- ・ 空き家の賃貸や売買に際し、家主と移住者との間を取り持ち、良好なコミュニケーションの構築に努めている。

【住民の声を反映している取組事例】

<p>取り組み</p>	<p>集落活動センターを核とした集落維持の仕組みづくり</p>
<p>経緯・狙い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少や少子高齢化の進行に伴い様々な地域課題が顕在化するなか、保育園と小学校の統廃合が持ち上がったことがきっかけとなり、地域内の各種団体が連携し「集落活動センターあわ」を設立した。 以降、「集落活動センターあわ」が中心になり、地域課題解決や地域活性化に関する事業を展開している。
<p>取組の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「特産品部会」「移住促進部会」「観光交流部会」「ハッピーライフ部会」「教育協働部会」等の部会活動を中心に、地域コミュニティの活性化や課題解決に向けた様々な活動を実施している。 月に1回役員会を開催し、それぞれの団体から見た地域課題を共有し、解決策について議論している。その際、実際に解決できる/できないに過度に捉われないように留意している。また、各部会の活動計画を共有・協議する場も設定している。 実際の活動は40～50名程度で実施しており、活動内容に応じて個別に参加者に声がけするとともに、現役世代でも活動に参加しやすいよう、活動日時の設定を工夫している。 特産品はふるさと納税の返礼品にもなっており、日々目に見える成果があることと、女性関わっていることで活気がある活動が続けることができている。 積極的な広報と、直接的な声がけによって活動の輪が広がり、地域外からも連携の打診が来る状況である。 <p style="text-align: right;">出典:集落活動センターあわ 資料</p>
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 空き家調査と移住促進の取組を通じて、移住者と地域をマッチングすることができた。 他地域の団体等から、一緒に活動したいという声が増え、関係人口の確保にもつながっている。 移住促進の取組が地域の中で浸透してきており、移住者を呼び込もうとする地域の空気感が醸成された。
<p>今後 取組みたいこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> 交流人口・関係人口確保に向けた取組をさらに拡張していきたい。 そのために、空き家や空き店舗を活用し、ゲストハウスやシェアキッチンを整備することで地域で泊まる場所や飲食できる場所を作っていきたい。



【概要】

立地自治体	福岡県宗像市	人口規模	約1,800人
設立年度	平成14年度	活動エリア	小学校区と概ね一致する
構成団体	構成団体	法人格の有無	無
	協力団体	体制	役員とは別の事務局体制を確保
詳細	役員	役員	事務局長:1人
	役員以外	役員以外	事務局員:6人
		ホームページなど	https://yoshitake-cc.com/

【具体的な活動内容】

【子ども支援・子育て支援】

■ 「正助さんの寺子屋事業」「学童保育所の運営」

- 地域が両事業を運営しており、特徴ある子育て環境づくりに取り組んでいる。
- 寺子屋では学習会を行うとともに、日々の生活習慣の教育やスポーツ等も行っている。
- 学童保育は地域にとって不可欠な活動として、協議会が市から指定管理を受けて運営している。
- 登下校の交通安全活動や、高齢者と子ども達の世代間交流も実施している。



【高齢者支援】

■ よしたけ福祉の郷づくり会

- 高齢者などの地域住民が集う場として「居場所づくり」を進めており、参加者が講師になるなど個人の特技を活かしたボランティア活動が行われている。
- 地域のボランティア団体が集まり、食事や小学生との交流などの場づくり等、様々な活動が行われている。

吉武小学校児童との交流



【住民の声を反映している取組事例】

取り組み	多様な主体と連携した事業の実施
経緯・狙い	<ul style="list-style-type: none"> 平成14年に設立された当協議会は、市より地域活動の権限と財源の移譲を受けて、吉武地区コミュニティ・センターを拠点に、まちづくり計画に基づく自主的な地域活動を実施してきた。また、地域独自のまちづくり計画を策定しており、「子どもたちの育成」「高齢者のサポート」を柱に掲げていた。 子育て環境づくりを中心に様々な地域づくり活動を行ってきたが、地域運営組織や自治会等の役員だけでは人的パワーに限界があるため、学校や地域内外のボランティアと連携体制を築いている。
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> 各事業を実施するに当たり、地域内住民ボランティアや学生ボランティア、地区外住民ボランティア等と連携している。 特に近隣にある複数大学との連携に力を入れており、大学の専攻内容(看護、教育等)に応じた協力をしてもらっている。例えば、看護師を目指す学生には高齢者の健康維持に関するアイデアや防災訓練時にアドバイスをもらったり、学童保育の指導員も教師を目指す学生等に参加してもらっている。 様々な人を巻き込むには、取組の目的や意義を理解してもらうとともに、具体的に役割を付与することや、世代を超えた交流の機会を持つことを重視している。 また、当初、協議会に所属していなかった地域団体(登山道の整備等を実施)を、順次構成団体に位置付けて、地域活動に巻き込んでいる。各団体にとっても、協議会に参画すると、事務やチラシ・資料作り等のサポートを受けることができる等のメリットがある。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 多様な主体を巻き込むことで、活動の継続性を向上させるとともに、それぞれの特技を活かした効果の高い地域づくり活動が展開できている。
今後取組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> さらなる人手確保のため、住民自らが応援してくれるような気持ちを醸成したい。そのため参加者が楽しみながら、生きがいややりがいを感じるような仕組みづくりを行いたい。 地域包括支援センターとの連携を強化し、高齢者の「地域で自分らしく長生きしたい」「自宅で最期を迎えたい」といった希望を実現できるようにしたい。 地域組織の仕分けや役割分担できる仕組みづくりを通じて、自助・共助・公助をスムーズに橋渡しできる地域支援組織を育成していきたい。



出典：吉武地区コミュニティ運営協議会 資料